

学校教育目標
～挑戦・発信・錬磨～ ○主体的に考え、伝える力と課題を解決する力を高める。【知】 ○人を思いやり、自分や周りを大切にすることを育てる。【徳】 ○様々なふれあいを通し、豊かな心と体を鍛える。【体・開】 ○社会の一員として、広い視野に立ったものの見方や考え方を身に付ける。【公・開】

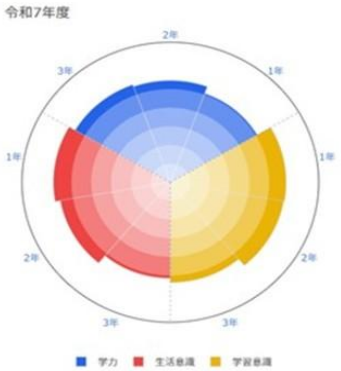
教育課程全体で 育成を目指す資質・能力	具体化した資質・能力
○課題解決力・発信力・コミュニケーション力 持続可能な社会の実現に貢献する力 （「知識及び技能」「思考力、判断力、表現力等」） ○自己肯定感・協働・挑戦する気持ち （「学びに向かう力、人間性等」）	・自ら課題に向かおうとする力 ・人と積極的に関わり、未来を創造する力 ・失敗を恐れず、挑戦し続ける力 ・仲間とともに錬磨する力 ・自分の考えを明確に伝える力 ・自分や他人を認め、理解し合う力 ・物怖じせず発信する力

中期取組目標
○学びを校内に留めることなく、様々な人と繋がり、生徒自ら課題を見つけ、その解決に向けて、他者と協働してともに学び合い、社会に発信できる「学び」を充実させます。 ・1、2年目は、一人ひとりを大切にしながら、仲間と協働してともに学びを深める授業、行事等を展開し、その成果を発信できる場面を多く設けます。 ・3年目は、学びを「社会」に広げ、ESDの活動を通して、課題解決の方策を他者と協働しながら、自分の意見やアイデアを進んで発信できる力を育成します。 ○学校、地域、家庭で連携して、生徒の自己肯定感・自己有用感を高め、何事にも自信をもって、挑戦する気持ちを育みます。 ・3年間を通して、一人ひとりが「価値のある」「必要で」「かけがえない」存在であることを実感し、個に応じた指導を充実させ学校を自分らしく過ごせる「場」とします。 ○学力向上、生活習慣の改善のために、横浜市学力・学習状況調査、体力・運動能力調査のデータを有効活用することでカリキュラムマネジメントを推進し、個々の

学力向上アクションプラン

重点取組分野	具体的取組
授業改善	①本校の実態、市の学状のデータに基づいての授業改善、授業力向上を目指す。生徒が自ら授業に参加し、自分の考えを発信できる授業になるようICT等をさらに活用して生徒が自信をもって臨めるようにする。 ②メンターチームと協力し、教員間の授業公開週間を設定し授業改善に努める。
担当	学力向上推進部・ICT教育推進部

今年度の目標	
さまざまなツールを活用しながら、生徒一人ひとりに合った個別最適な学習を行う。	
目標を実現するための具体的行動プラン	
上半期	○放課後学び場事業を活用しながら、学習を継続して行う取り組みをすることで学習の素地をつくる。 ○AIDリルなど、ICTを活用しながら、自身で選択をして学ぶことのできる環境作りをする。
	○市の学状の結果をもとに、授業改善を行いながら個別最適な学習方法を考える場を設ける。 ○メンターチームを中心に授業改善を行う。
下半期	

学力向上に関わる本校の状況	
○横浜市学力・学習状況調査の学力・学習意欲に関しては、学年による差はあるものの、概ね横浜市の平均を上回っている。入学時において既に市の学力平均を上回っている生徒が多いと考えられるが、令和7年度においては、3年生のみ学力の伸び率は上がっており、1、2年生は伸びきれていないという結果が出ている。	
令和7年度  ■ 学力 ■ 生活態度 ■ 学習意欲	

豊かな心の育成推進プラン

重点取組分野	具体的取組
道徳教育 人権教育	①小中ブロックで9年間を見通した人権教育を行うために、小中合同での人権に対する研修や各学校での取組の共有を図る。 ②道徳の授業前後の日常で子ども一人ひとりの成長の様子を見取り評価していくことを大事にし、学校教育目標や他教科との関連も意識し、授業改善に取り組む。
担当	道徳・人権教育推進部

豊かな心に関わる本校の状況

○豊かな心に関わる本校の実態

横浜市学力・学習状況調査、生活実態調査の結果から自分のことが好きかどうかという問いに好き、どちらかといえば好きと答える生徒の割合が、市の平均よりもやや上回っているが、学年が上がるにつれて割合が減ってきている。また、はっきりと嫌いだと答える生徒がいることにも注目する。

学年	系列1	系列2	系列3	系列4	系列5	系列6
1	0.32716049	0.48765432	0.09302216	0.0837219	0.0121219	0.0000000
2	0.32563098	0.46009573	0.14643159	0.0121219	0.0121219	0.0000000

学年	系列1	系列2	系列3	系列4	系列5	系列6
1	0.37037037	0.41491491	0.40041704	0.0121219	0.0121219	0.0000000
2	0.27645759	0.46286693	0.17444444	0.0121219	0.0121219	0.0000000

学年	系列1	系列2	系列3	系列4	系列5	系列6
中学校3年	0.2890625	0.484375	0.14068547	0.0121219	0.0121219	0.0000000
市	0.28009838	0.458602363	0.179108213	0.0121219	0.0121219	0.0000000

今年度の目標

一人ひとりを大切にしながら、仲間と協働してともに学びを深める授業や行事等を展開し、誰もが安心して豊かに過ごせる・学級、学校づくりを行っていく。

目標を実現するための具体的行動プラン

上半期

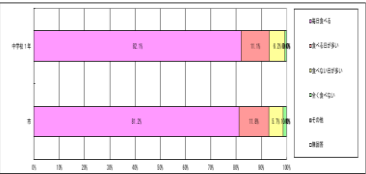
- ・「人権作文」に全校で取り組み、人権に関する意識を高める。また、お互いに人権に関する意識を共有するために学級での道徳授業を活用する。
- ・平和学習「よこはま子ども国際スピーチコンテスト」の取組を通し、国際平和への理解を深める。
- ・授業や特別活動など通して、コミュニケーション能力を高め、仲間との関わりの中で自分の存在を認め、自らの役割を担う中で自尊感情を高められるような活動を意図的・計画的に行う。特に道徳では、全職員で授業改善に努め、生徒の内面的な成長につなげられるようにする。同時にあらゆる差別は「差別する側の問題」（自らが差別する側にいること）であることを子どもに分かる学びの場をつくる。

下半期

- ・上半期の活動の振り返りを行い、下半期にある「人権週間」への取組につなげていく。
- ・人権週間では、生徒に向けた講話や職員に向けた研修の機会を持ち、人権意識の向上につなげる。
- ・地域とのつながり等を踏まえて、ボランティア活動等にも力を入れて取り組んでいく。
- ・日々の教科授業の中で「グループ活動」を取り入れ、お互いに学び合う機会を設定し、「人とながる」「人から学ぶ」「自分を大切にすること」「他の人も大切にできる」感覚を育む。

健やかな体の育成プラン

重点取組分野	具体的取組
健康教育 食育・安全教育	①睡眠の質の向上に向けての促進を図る。 ②健康・安全について主体的に実践できるよう、計画的に健康教育を実践する。
担当	保健安全指導部

健やかな体に関わる本校の状況		今年度の目標													
1 調査結果を振り返っています。  <table border="1"><caption>睡眠の質に関する調査結果</caption><thead><tr><th>学年</th><th>良</th><th>普通</th><th>悪</th></tr></thead><tbody><tr><td>平成7年度</td><td>80%</td><td>10%</td><td>10%</td></tr><tr><td>平成8年度</td><td>70%</td><td>20%</td><td>10%</td></tr></tbody></table>		学年	良	普通	悪	平成7年度	80%	10%	10%	平成8年度	70%	20%	10%	SDGsの取組にもつなげ、生活習慣向上に向けて意識的に日頃からできる活動を実施していく。	
学年	良	普通	悪												
平成7年度	80%	10%	10%												
平成8年度	70%	20%	10%												
目標を実現するための具体的行動プラン															
上半期	○朝ご飯をしっかり食べてきている生徒が多いが、バランスが悪いのでバランスの取れた食事の意識を高めたい。 ○規則正しい生活習慣を確立させるためにも、休養・睡眠の質を上げることが大切であり、その方法を講演会等を通して伝えていく。 ○課題解決に向けた具体的な実践につなげられるようにするために、新体力テストの結果や健康診断の結果を一人ひとりの生徒が振り返る時間を設定する。 ○学校保健委員会の取組を上手く活用し、学校全体で意識向上につなげていく。														
	下半期	上半期の取組を振り返りながら、課題解決に取り組む態度や課題を解決するための適切な意思決定や行動選択が行う力が育まれるようにする。													